

福島県における復興祈念公園のあり方  
(基本構想への県提言)  
検討有識者会議

---

検討有識者会議 資料

【福島県の復興計画等】

平成27年10月9日

福島県土木部まちづくり推進課

# 1.福島県における復興に関する計画等について

これまで福島県及び関係機関が東日本大震災に対し、取り組んできた復興計画等における復興祈念公園の位置付けについて整理する。

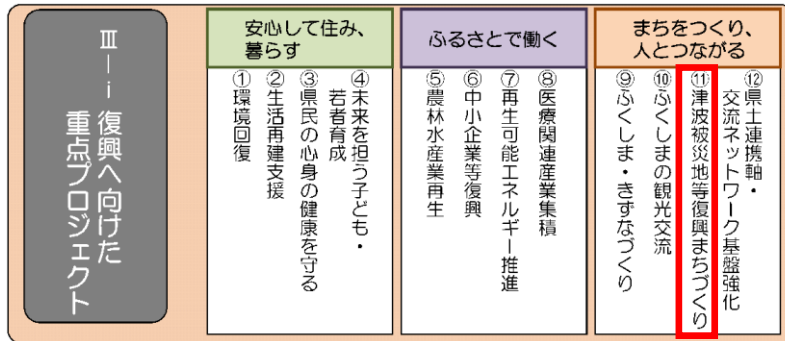
|          |                             |   |
|----------|-----------------------------|---|
| 平成23年8月  | 福島県復興ビジョン                   | 策定団体：福島県<br>対象期間：10年<br>内 容：本県の復興に当たっての基本的な方向を示したものの3つの基本理念と7つの主要施策で構成  |
| 平成23年12月 | 福島県復興計画(第1次)                | 策定団体：福島県<br>計画期間：10年<br>内 容：復興ビジョンに基づき、さらに具体的な復興のための取組や事業を示すために策定   |
| 平成24年12月 | 福島県復興計画(第2次)                | 策定団体：福島県<br>計画期間：10年<br>内 容：避難指示区域の見直しへの対応、避難の長期化に伴う支援強化や新たな生活拠点の整備検討、帰還を加速させる取組などを追加   |
| 平成26年6月  | 福島・国際研究産業都市(イノベーション・コースト)構想 | 策定団体：福島・国際研究産業都市(イノベーション・コースト)構想研究会<br>(座長:赤羽原子力災害現地対策本部本部長(経済産業副大臣))<br>計画期間：短期(~H28年度)、中期(H29~32年度)、長期(H33年度~)<br>内 容：浜通り地域での将来的な発展の可能性を持つ新産業の一端を示し、地域の企業や住民と一体となった「新生・浜通り」の検討を進めていくための骨格を定める |

# 2.福島県の復興計画(第2次)の概要

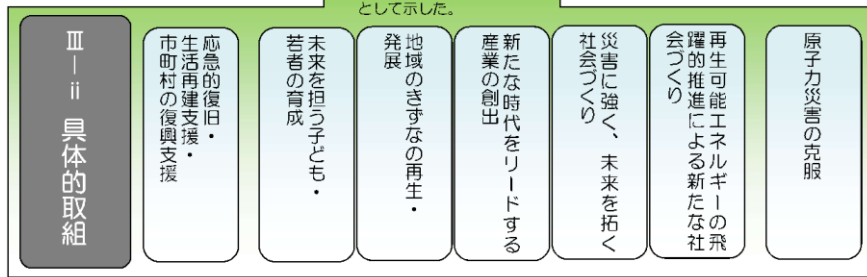
## ■ 基本理念

- ・原子力に依存しない、安全・安心で持続的に発展可能な社会づくり
- ・ふくしまを愛し、心を寄せるすべての人々の力を結集した復興
- ・誇りあるふるさと再生の実現

## ■ 主要施策



復興のために重要な取組を抽出し、プロジェクトとして示した。



## ■ 具体的取組



※記載の取組については、必ずしも財源が確保されたものだけではありません。

## 2.福島県の復興計画(第2次)の概要

### ■重点プロジェクト “まちをつくり、人とつながる”

#### 11 津波被災地等復興まちづくりプロジェクト

##### 目指す姿

津波により甚大な被害を受けた沿岸地域等において、「減災」という観点からソフト・ハードが一体となり、防災機能が強化されたまちが生まれている

##### プロジェクト内容

- 1 津波被災地における海岸堤防の嵩上げ、海岸防風林、防災緑地、道路、鉄道など、複数の手法を組み合わせた「多重防御」による総合的な防災力が向上したまちづくり
- 2 情報連絡体制や物資の確保体制の充実など地域防災計画等の見直し、防災訓練の強化や防災リーダーの育成などによる防災意識の高い人づくり・地域づくり

3 地域とともに取り組む土地利用の再編や復興のまちづくり計画策定及び実施

主要事業の一つに  
メモリアル公園整備事業を位置付けている

## 3.イノベーション・コースト構想の概要

### ■構想の目的

イノベーション・コースト構想は、福島浜通りを中心とする地域の地域経済の復興のため、オリンピック・パラリンピックが開催され、世界がこの地域の再生に注目する機会となる2020年を当面の目標に、廃炉の研究拠点、ロボットの研究・実証拠点などの新たな研究・産業拠点を整備することで、世界に誇れる新技術や新産業を創出し、イノベーションによる産業基盤の再構築を目指すとともに、これらを通じて、帰還する住民に加え、新たな住民のコミュニティへの参画も進めることにより、**地域の歴史や文化も継承しながら、魅力あふれる地域再生を大胆に実現していくこと**を目指すもの。

### ■構想のコンセプト

1. イノベーションによる産業基盤の構築  
⇒浜通り地域で将来的な発展の可能性を持つ産業の一端を明示
2. 帰還住民と新住民による広域のまちづくり  
⇒帰還住民と新たに移り住む研究者等が一体となって地域活性化を図る必要性を明示
3. 地域の再生モデル  
⇒国内各地域に共通する高齢化・過疎化等の課題に対する再生のモデルを明示

# 3.イノベーション・コースト構想の概要



## イノベーション・コースト構想の柱

### 1. 国際廃炉研究開発拠点 (放射性物質分析・研究施設)

- 廃炉研究の中核施設、1 F 近傍に設置
- 高濃度放射性物質 (燃料デブリ等) の分析を行い、世界の研究者を集めた研究を実施



### 2. ロボット開発・実証拠点

#### (1)モックアップ試験施設 (屋内ロボット)

- 廃炉作業等屋内を想定したロボットの試験施設。楯葉町に建設中(2015運用開始)
- 企業や大学の研究・開発のための共用施設を整備



#### (2)福島ロボットテストフィールド (屋外ロボット)

- 陸海空の災害対応ロボットについて官民の研究・実証施設
- 災害対応ロボットの技術開発支援
- 研究・実証を円滑に進めるため、電波法や航空法等の規制緩和特区とする。



#### (3)ロボット国際競技大会

### 3. 国際産学連携拠点

- 全国の原子力関係の研究室が集結。
- 廃炉、汚染水対策、環境修復、農林水産、医学等、現地ならではの教育研究を推進。
- 産学連携体制を整備し、ベンチャー企業の創出促進
- 海外原子力技術者の研修も実施。
- 原子力災害の教訓・知見を継承、世界に発信するための情報発信拠点 (アーカイブ拠点)



### 4. 新たな産業集積

#### (1)スマート・エコパーク

- 被災地の膨大な廃棄物のリサイクルや希少金属を抽出する拠点を整備。地元雇用を創出。



#### (2)エネルギー関連産業の集積

- 高効率石炭火力、LNG基地、洋上風力等に関連した産業の集積。
- 産総研を核とした研究開発、避難指示区域での再生可能エネルギーの大量導入

#### (3)農林水産業プロジェクト

- スマート農業、バイオマス、CLT、水産研究施設強化

### 5. インフラ整備

#### (1)交通インフラ

- 常磐自動車道の全線復旧
- JR常磐線の早期復旧
- ふくしま復興再生道路等の整備



#### (2)産業・生活インフラ

- 産業用地や生産・物流施設、事務所等を浜通りに計画的に整備
- 双葉郡の中高一貫校 (2015開校)

